

2018年10月
1148号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

憲政の父・尾崎行雄生誕160周年の集い ～自らが主体者となって、新たな未来を築く～ 『人生の本舞台は常に将来に在り』

今年12月24日に、尾崎行雄先生の生誕160年を迎えます。

秋の訪れが感じられた平成30年10月19日、尾崎財団主催による「憲政の父・尾崎行雄生誕160周年の集い」が憲政記念館にて開催されました。衆参両議院から代理を含む多くの国会議員の方々、そして罌堂塾出身の地方議会議員の皆様も多数ご参加。尾崎先生の選挙区であった伊勢からは、NPO法人罌堂香風の皆様も参加。出席者全員にと伊勢名物のお菓子をお土産に頂きました。全国から120名超の関係者・協力者の方々が参加。平成最後の年と生誕160周年という節目の年にこのような素晴らしい会に一冊の会が参加出来たことは大変光栄なことでした。



尾崎行雄記念財団応接室に掲載されている尾崎行雄先生の肖像画

式典は、まず尾崎行雄先生のダイジェスト上映でスタートしました。若くして自由民権運動に身を投じ、明治23年の議会開設と共に衆議院議員に選出され、その後連続当選を果たし、初の衆議院議員名誉賞並びに東京都名誉賞を受賞され、病床のなかでも世界平和を築くべく熱心に戦争反対に取り組まれた姿勢はまさに、「生涯現役」を貫く尾崎先生の信念を表していました。一冊の会では「人権紙芝居」として尾崎先生の生涯を紙芝居にし、手弁当で全国に出前講座を展開して尾崎先生の精神を後世に、と活動を続けております。

尾崎行雄記念財団会長である大島理森衆議院議長、同財団理事長・高村正彦様（元外務大臣）がご挨拶されました。お二人のお話を通して、尾崎行雄先生のその信念が、今日の政治に変わらず大きな影響を与えているのだということを改めて感じました。

祝電・メッセージも多数寄せられており、安倍晋三内閣総理大臣は明治維新から150年となる記念すべき年、憲政の父として日本民主政治、議会政治の在り方を再度全国民と共に考えていきたいと話されました。更に枝野幸男立憲民主党代表や鈴木健一伊勢市長からのメッセージが読み上げられていました。

NPO法人罌堂香風 土井孝子理事長からは。「全米桜まつりへの参加と日米交流」というテーマで、これまでの日米交流の経過や今年の訪米の様子を、スライドで写真を披露しながら講演がありました。罌堂香風は、尾崎行雄先生の選挙区であった伊勢市を中心に活動されており、尾崎行雄生誕祭、罌堂読書感想文コンクール、桜写生コンクール、日米交流(全米桜の女王)の伊勢招聘、花みずきの女王選出、全米桜祭りへの



ハナミズキの女王と記念撮影

参加)などを通して、青少年教育と有権者啓発に取り組んでいっしょうじやいます。また花みずきの女王のお二人も笑顔で挨拶をされ、まさに会場にパッと明るく美しいハナミズキが咲いたよう。最後には尾崎先生のご短歌を紹介されました。

“人の世は移り変われどこの花は永く栄えて好意結ばん”

アメリカと日本の友好を築いた尾崎先生の思いは毎年咲き誇るポーツマス湖畔の美しい桜のように、変わらず多くの人に引き継がれ新たな平和な歴史を築いています。

石田理事・事務局長からは挨拶の前に、被災地支援を共にしている団体として一冊の会を会場の皆さまにご紹介下さり、たくさんの方々から暖かい拍手を頂きました。石田理事・事務局長は、以下のように語られました。(抜粋)

『尾崎行雄が目指した民主政治とは何か？それは“有権者中心の政治”である。我々有権者一人一人がお上任せにしない。他人任せにしない。我々一人一人が社会を創る、国を創る。そのために何が正しいかを考えぬいて一票を投ずる。これが、尾崎の考える民主政治である。尾崎は権力に対して、厳しい言葉を投げかけた



たこともある。けれども、それと同時に、それ以上に厳しい言葉を投げかけたのは国民に対してである。有権者に対して厳しく民主主義のあり方を厳しく説いた。これが尾崎行雄の姿勢である。我々はずいぶん今の政治がどうだ、とか、政治家がダメだとか・・・そういうことを言う前に我々一人一人がどう言う社会を目指すのか？どう言う国を目指すのか？これを考えた上で一票を投じていく、行動していく。これがなければ民主政治は始まらない。尾崎行雄は常にそれを国民一人一人に厳しく投げかけてきた。我々尾崎財団はこれから本舞台だと思っています。これからも皆様と

一緒に、国民一人一人に対する厳しさ、有権者に対する厳しさ、これを広めていきたいと思っております。みなさんと一緒に広めて行きたいと思っております！』

会場からは賛同の大きな拍手が湧きあがり、未来を築く担い手の一人として身が引き締まる思いです。

場所を、近隣の官公庁 やビジネスマンもよく利用されているレストラン「霞ガーデン」に移し、用意してくださったお料理を頂きました。会場はまさに超党派。お話にも花が咲き、お料理も大変美味しく、みなさんの笑顔があふれる素晴らしい懇親会となりました。

真の民主政治を目指した尾崎先生の信念を、たくさんの方々がこの憲政記念館で語り合い、同じ思いを胸に時間を共有することの喜びをかみしめると同時に、尾崎先生の『人生の本舞台は常に将来に在り』という信念を深く胸に刻み、生涯現役として社会のために日本の将来のために、我々一人一人が自覚を持ち生きていくこと、そしてその精神を一人でも多くの方に伝えていくことの大切さを忘れてはならないと再認識致しました。会場のステージ前方の尾崎行雄先生の肖像画のそのまっすぐな視線は、参加された方々それぞれの生き方に問いかけているような緊張感も感じられましたが、それと同時に終始とても穏やかに暖かく、これから私たちが築く日本の未来に希望を見ていっしょうじやるようでした。

文責：河野訓子・卜部恵 協力：一冊の会研究員城杉清佳